

子育てワンポイント 励ましのことば17

2章「友達との遊びが子どもの人格を育てる」より

「遊びは子どもの仕事だ」などと言いますが、「遊び」は暇つぶしではありません。大人にとって遊びは、休息であったり、快楽を求めたり、ストレス解消ですから、直接的に生産的ではありません。しかし、子どもにとっては生産的であり、しかも創造的なのです。発達に不可欠なものです。



子どもの遊びをずっと見てみると、昨日と同じことはしていない、昨日より上手になろう、発展しようとしている。ピゴツキー*の言葉を借りると「発達方向に向かった最近接領域の課題にいつも挑戦して取り組んでいる」のです。分かりやすく言えば、**絶えず一歩次の段階に踏み出そうとしている**というわけです。

木登りをすれば昨日よりも高く登りたい。石蹴りをしたら、昨日より上手に石を蹴りたい。すべてにおいて、感覚的にも運動的にも認識的にも。今できないことを絶えず次の瞬間にやろうとしている。だから子どもは絶えず「発達」という衝動に駆られて行動しており、遊びはまさにそれなのです。

また子ども達の遊びには、さらにもう一つ大切なことがあります。遊びは基本的には仲間と遊ぶので、ルールを作ることになり、ルールを守る練習になります。そしてそのために、役割を分担し、みんなの承認も必要です。そしてその役割に向かって努力をし、達成した感動を分かち合うのが嬉しいのです。失敗もありますが、遊びの中での失敗は「明日やればいいよ」「今度やればいいよ」とチャンスが与えられます。つまり「道徳性」「倫理性」を持った社会人になるために、遊びは不可欠だと(ピゴツキーは)言っているのです。

*ピゴツキーは旧ソ連の教育心理学者(1896-1934)です。今回は「遊び」の大切さを学びました。夏休み、宿題も大切ですが、子ども達には思いっきり遊んでもらいたい！親の祈りです。